

新聞圖會 廿九号



愛小戒くまべき一話あり、所ハ西京五條あり、
 若宮八幡の近傍、夫婦暮しの茶碗画師、
 名も茶樂らの十話喧嘩呑む酒の十六夜
 紛々女をなむむいての之草ハ己が茶碗の
 癖とて毛もる此事を焼付る筋也
 模様も分らぬや以藍も濃も
 さの果に細音の悪い女の
 とみ女房もヤツキあり、
 糸尻癖の悪いのをたすつ
 て居れハ土留や
 小猪口あへど
 やつまみ出さ
 しょうして
 煙がて置けり
 やたいで見らう
 つらの度かぶり付てもやうたいとヤツサモツサの
 大騒が堪へ兼てや側ニ有合鏡お取て、
 一折らうてバ打処悪うとヤ女房ハ
 其休息絶えらうと、さうぞ此鏡ハ

つとて打擲せんと
 夫婦喧嘩と

茶碗画師

江戸
 廿九号

